



2024 年 3 月 13 日
公益社団法人日本建築家協会
表彰委員会

2023 年度第 35 回 JIA 新人賞 決定のお知らせ

2023 年度第 35 回 JIA 新人賞受賞者をお知らせいたします。受賞者詳細は、添付書面にてご確認ください。

受賞者	所属	作品名
ふじわら てっぺい 藤原 徹平	フジワラテッペイアーキテクトラボ	チドリテラス
かいほう けい 海法 圭	かいほうけいけんちくせつけいじ むしよ 海法圭建築設計事務所	じょうえつしせつちゅうちようしせつ 上越市雪中貯蔵施設 ユキノハコ

(応募登録順)

※2023 年度 JIA 新人賞は、2018 年 1 月 1 日より 2022 年 12 月末日（5 ヶ年）までに日本国内で竣工した建築作品を対象とし、審査が行われました。

・審査委員

妹島和世氏（委員長）、長田直之氏、中山英之氏

・実施状況につきまして

2023 年 9 月 5 日（火） 応募締切

2023 年 10 月 26 日（木） 第 1 次審査会にて応募作品 68 点の中から 10 点を選出。

2023 年 11 月 19 日（日） 第 2 次審査会（WEB 配信による公開審査）にて候補者によるプレゼンテーション及び質疑応答を行い、現地審査対象作品 6 点を選出。

2024 年 1 月～2 月 現地審査実施。

2024 年 2 月 20 日（火） 最終協議を経て、上記受賞者を決定。

チドリテラス

藤原 徹平（フジワラテッペイ）/フジワラテッペイアーキテクツラボ



1975年 横浜生まれ

1998年 横浜国立大学卒業

2001年 横浜国立大学大学院修了

2001-12年 隈研吾建築都市設計事務所勤務

2010年- 一般社団法人ドリフターズインターナショナル設立 理事

2012年- 株式会社フジワラテッペイアーキテクツラボ設立 主宰

2012年- 横浜国立大学大学院 Y-GSA 准教授



© Masao Nishikawa Photography Studio



© Masao Nishikawa Photography Studio

18戸の庭と家が集まってできるコモングラウンドの集合住宅

チドリテラスは、18戸全てが異なる平面形を持つコーポラティブハウスである。住戸それぞれにフリンジ（縁）空間を付与し、多様な空間と暮らしのにじみ出しの集合として集合住宅を捉え直した。コーポラティブハウスならではの豊かなルーフトップや中庭を持ち、周辺の住宅地とスケールを合わせて建築の外形を雁行させることで、どの住居もそれぞれに庭との関係を持つ。条件が悪い地下住居は、南西側と北東側に光と風を取り込むサンクンガーデンを掘り込み、その形状を工夫することで、かえって光や風の豊かさが感じられるようにした。

これらの複雑な全体の計画を可能とするために、構造は「有機的な壁構造＋フラットスラブ」のハイブリッドシステムとし、逆に設備は幹線を中央に集中させる合理的なアプローチとしている。

上越市雪中貯蔵施設 ユキノハコ

海法 圭 (カイハウ ケイ) / 海法圭建築設計事務所



2005 年 東京大学工学部建築学科卒業
2007 年 同大学大学院修士課程修了
2007 ～ 09 年 西沢大良建築設計事務所
2010 年 海法圭建築設計事務所設立
現在、芝浦工業大学非常勤講師、法政大学非常勤講師



写真：水津 惣一郎



写真：水津 惣一郎

循環の重なり合いをかたちにする

新潟県上越市の安塚というまちにつくられた木造の雪室である。

雪室とは雪の冷熱を利用した天然の冷蔵庫であり、今回は市内で収穫した米を主に貯蔵する。農業従事者の高齢化と後継者不足に加え、一般的に棚田の農家は平場の農家より生産性が低く低所得になりがちという課題に対して、棚田の米を雪室貯蔵することで付加価値をつけ、また雪室の一部をギャラリーにして多くの人に雪室の素晴らしさを伝えることで、棚田農家の所得向上に繋がたいというのが上越市の思いである。

貯雪室内は常に高湿度で、雪圧や雪の挙動で建物が損傷する可能性があるため、鉄筋コンクリート造が選択されるのが一般的であるが、今回は木造として、地域の林業と雪の持続的な関係性を見直すことを目指した。木造で廉価な雪室を実現できれば、農業従事者が新築や改修を問わず、より気軽に雪室をつくることができ、除雪・克雪ではなく利雪の気運が高まり、雪エネルギーの利用促進に繋がる。雪室は性能的に外部に閉じざるを得ない建物である。今回は周囲にぐるりと半屋外の回廊を巡らすことで、来訪者が敷地周辺の魅力を感じられるようにした。例えば冬に排雪場になる地域にとって大切な小黒川の音や鳥の声が聞こえるように外壁の一部を目透かし状にした。また地域住民にとって日常の風景を印象的に切り取る開口を配した。生産者が雪国で農業を営むことに誇りを持てる場所になることを目指した。回廊の外壁は貯雪室を囲む内側の断熱壁への日射を防ぎ、環境負荷を低減するダブルスキンになると同時に、冬期の雪囲いも兼ねる。また回廊の長柱を分割するように補助梁を設けて組柱にすることで、大断面集成材を使わずに、地場のスギの小径材を利用した在来工法で雪室に必要なスパンや天高を確保した。

雪、人、米、木、風、熱など、さまざまな規模や特徴を持つ「循環」が重なる、その重なり合いの風景を、その循環の一部を補完したり、よりよい循環の接点を見つけたりすることで雪室という建物の形にしている。